



②



①



③



⑤



④

①店内はレトロな雰囲気を醸し出しています。②定番商品ははじめマンスリーで限定フレーバーが楽しめます。③ブルーシールHISTORY ここにブルーシールの全てが④⑤食べるだけのアイスから、楽しむためのアイスへ。アイスパークではお好みのトッピングで自分だけのアイスバーが作れます。

#### 新年号お年玉クーポン プレゼント

フォーモストブルーシール株式会社さんから、「広報うらそえ」読者にクーポンのプレゼントです。このページ左上のクーポンを切り取って、牧港本店レジに提示すると、「シングル購入で」リサイズアイスプレゼント!!

※2017年1月4日(水)~2月末まで

一人でも多くの人をアイスで笑顔にしたいという水田さんの思いは尽きることがありません。自家製野菜や果物を持ち込み作るアイス、血糖値が高い人でも食べられるアイスが作れないかなどを模索。その飽くなき挑戦はこれからも続きます。

定 番商品に加えて月替わりで登場する商品、店舗限定商品など常時30種類以上のフレーバーが楽しめるブルーシール。昨年9月20日には牧港本店隣に体験型ミュージアム「アイスパーク」をオープン。毎日多くの笑顔に出会える施設となっており注目を集めています。代表取締役社長を務めるのは広島県尾道市出身の水田正明さん(58)。浦添市観光協会会長も務め、市の産業と観光の振興に奮闘し活躍しています。

水田さんが沖縄に来たのは今から31年前。27歳の時に株式会社ポッカコーポレーションの沖縄駐在員として赴任します。水

地道に歩み続けた31年

田さんに与えられたのは、3年間で10億の売り上げを達成するという使命でした。

製品生産工場の確保、缶入りさんぴん茶など沖縄独自の商品開発に、成長が見込めた自動販売機の普及展開をします。顔も知らない、言葉(方言)も分からない中で、スーパーや地域の商店を一軒一軒回り商品を買

けました。「最初こそ距離感があったが、地道な努力によりいつの間にか信頼し合える関係が築けました」と水田さん。その手腕と努力が実を結び、91年までに10億円、96年には20億円の売り上げ目標を達成します。ちょうどその頃、ブルーシールを保有していた外資系企業か

ら、経営の厳しかったブルーシールを売却したいという話を持ちかけられます。「ブルーシールは、ブランドとしては凄いのを持つている」そう思った水田さんはポッカ本社の社長に掛け合い、ブルーシールの再建に携わります。その後11年4月にブルーシールの社長に就任。

「今振り返ると、私は仕事上当たり前の苦労をしてきただけ。一番苦労したのは妻や家族だと思います。仕事で帰れない日もあったわけですから。ここまでこれたのは家族の支えがあつてこそ。その支えを力に多くの仲間を作っていくことを大事に

してきました。今その人脈がブルーシールに生きています」と家族や支えてくれる全ての人に

対する感謝の気持ちを語ります。

沖縄県民に愛されてこそ

ブルーシールは沖縄の人々に愛されてこそその存在。沖縄県民にこんなに愛されているブルーシールがあるんだと思ってもうることが大事なんです。それが必然的にブランド力を高め県外の皆さんにPRすることにつながると思っ

ています。続けて「店を訪れる年配のお客さんから、牧港店に来ると若い時におばーとデートしたことを思い出す。今も昔も変わらない雰囲気を残して欲しい」と言われたことがあり、そういう声を聞くと、ブルーシールというブランドが沖縄に昔から浸透していることを感じる事がで

き、うれしくなります」と笑顔を見せます。

創業68年という歴史あるブルーシールブランドを継承し発展させていくためには、これまでの人の思いを大切にすること、新しいことに挑戦し続けることが重要だと言います。「そういう意味ではアイスパークは次世代を担う子どもたちに夢を与える場所であり、アイスを通して笑顔が生まれる場所。自社にしかできない挑戦だ」と自負します。「そういった挑戦の中から自社のファンが増えるとうれしいですね」。

#### 水田 正明 さん(58)

- 1958年1月2日生まれ。広島県尾道市出身。ポッカコーポレーション株式会社の沖縄駐在員として27歳の時沖縄に。沖縄の流通や市場開拓に尽力し、沖縄ポッカコーポレーションの社長に。2011年4月フォーモストブルーシール株式会社代表取締役社長に就任。2015年6月には浦添市観光協会会長に就任するなど浦添市の産業や観光の振興に寄与する人物(写真右)
- 好きなアイスクリームは「いちご系」
- 写真左は毎日店内カウンターでお客様を笑顔で迎えるジョニーさん(愛称)

# ROAD

輝く人たち No.007

新しいことに挑戦し続けた31年  
その挑戦はこれからも続く